

2013年制定 コンクリート標準示方書 規準編

「土木学会規準および関連規準」

正誤表

(2013年制定・第1刷対応)

2014/1/27

ページ	行	誤	正
230	下から3行目	4. 試験方法において、項目c)が抜けており、右記を挿入する。	c) 荷重は、衝撃を与えないように、なるべく様な速度で加えなければならない。载荷速度は、平均5mm/分以下となるようにする。

2014/3/17

ページ	行	誤	正
規準関連小委員会委員構成	上から14人目	小牟禮 健一	小牟禮 建一
規準関連小委員会作業部会	下から3行目	小牟禮 健一	小牟禮 建一
446	下から6行目	60%以上 ⁽¹⁾	60%以上 ⁽³⁾
451	図1		「別紙1」参照
452	図2	試験体材料（凡例：2箇所）	被着材
452	図2	鋼板付試験体（凡例：2箇所）	鋼板付被着材
454	図1	試験体材料（凡例：2箇所）	被着材
454	図1	鋼板付試験体（凡例：2箇所）	鋼板付被着材
456	下から7行目	JSCE-F 533の2	JSCE-F 533の3
462	図1	鋼鉄付着ジグ	鋼製付着ジグ
463	下から13行目	昇降温	昇降温度
465	上から10行目	試験片	供試体
489	上から2行目	デブスパー	デブスパー
492	下から3行目	充填p用エポキシ…	充填p用エポキシ…
493	下から3行目	ひび割れ透水比には、…	ひび割れ透水比には、…
494	図8	「供試体」（6カ所）	「試験体」に修正
494	図9	・「供試体」（1カ所）	・「試験体」に修正
		・エポキシ樹脂系接着剤を指し示す線が途切れている（2本）	・線を追記
		・ロジン及びパラフィン混合物を指し示す線が途切れている（2本）	・線を追記

2015/9/1

ページ	行	誤	正
270	図1 (a) V漏斗 試験装置の幅		「別紙2」参照

2016/12/20

ページ	行	誤	正
123	上から4行目	5.4 5℃で鉄筋の曲げ内直径を鉄筋公称 直径の3倍 (3φ) として	5.4 5℃で鉄筋の曲げ内半径を鉄筋公称 直径の3倍 (3φ) として

(2013年制定・第1刷～第2刷対応)

2017/10/24

ページ	行	誤	正
242	上から14行目	「6. コンクリートの品質」 コンクリートは、粗骨材の最大寸法 が20mmまたは、25mmの普通骨材 とし、スランブを10±2.5cm, 圧縮 強度を30±0.3MPaとする.	「6. コンクリートの品質」 コンクリートは、粗骨材の最大寸法 が20mmまたは、25mmの普通骨材 とし、スランブを10±2.5cm, 圧縮 強度を30±3.0MPaとする.

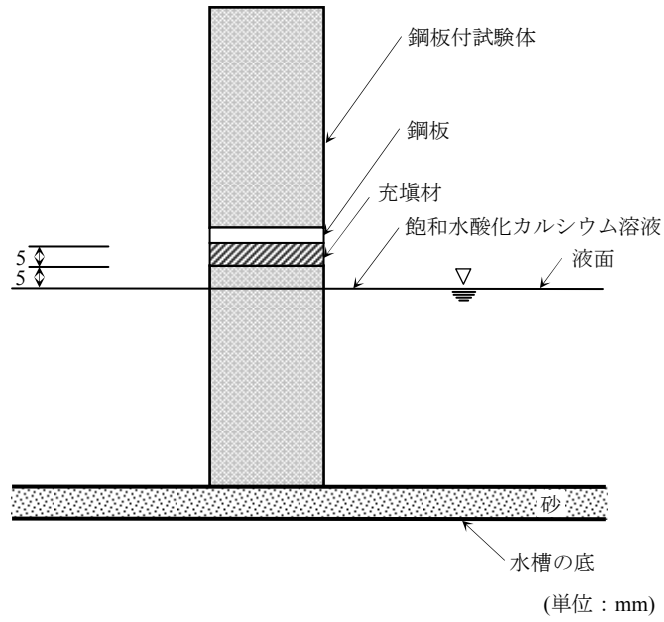
2018/4/23

ページ	行	誤	正
26～32	—	Sc ²⁴	Sc
26	上から1行目	JIS A 1145のアルカリ濃度減少量	アルカリ濃度減少量
26	上から18～20行目	e)Sc ²⁴ : 温度40℃で24時間反応させた 時の溶解シリカ量. f)Sc ⁴⁸ : 温度40℃で48時間反応させた 時の溶解シリカ量. g)アルカリ反応性指数 (ARI) : (Rc ⁰ -30) / Sc ²⁴	e)アルカリ反応性指数 (ARI) : (Rc ⁰ -30) / Sc
31	上から5行目	それぞれの各定量値の	それぞれの40℃の各定量値の
31	上から6行目	各骨材のRc ⁰ とSc ²⁴ を求める.	各骨材のRc ⁰ を求める.
31	上から9行目	また、反応温度40℃で24時間反応さ せた場合の溶解シリカ量すなわち Sc ²⁴ を求める.	また、反応温度40℃で24時間反応さ せた場合の溶解シリカ量すなわち Sc²⁴を求める.
31	上から11行目	Rc ⁰ とSc ²⁴ を用いて	Rc ⁰ と80℃のScを用いて
31	表2	0.65 < ARI	0.6 < ARI

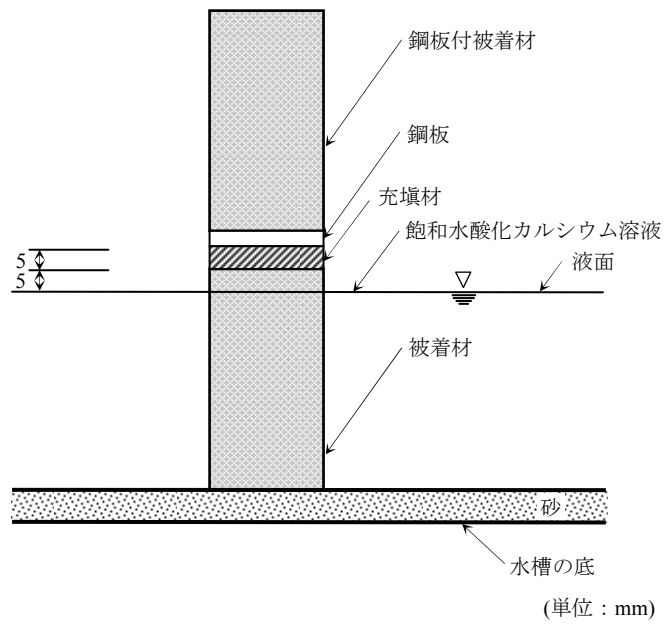
2018/6/21

ページ	行	誤	正
80	上から12行目	鍛造	鑄鉄製又は鑄鋼製の
128	下から7行目	JIS G 3112の8. 3. 2	JIS G 3112の9. 3. 2
148	下から13行目	試体の	供試体の
181	下から9行目	B供試体は、4. 3. 2 b) に	B供試体は、4. 3. 1 b) に
221	図1, 図2	与える概略図 (例)	与える装置の概略図 (例)

誤



正



別紙 2

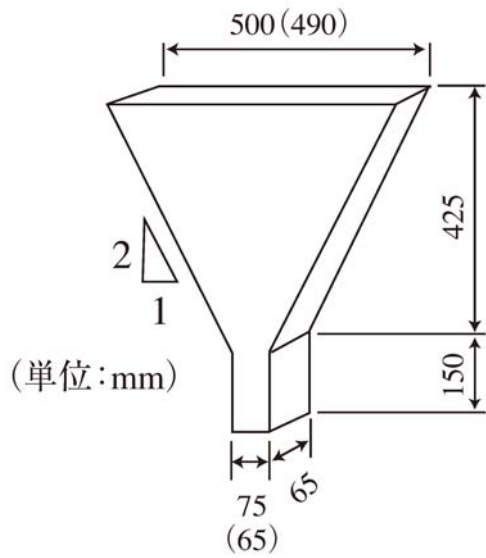
訂 正

2013 年制定 コンクリート標準示方書 規準編 270 ページ

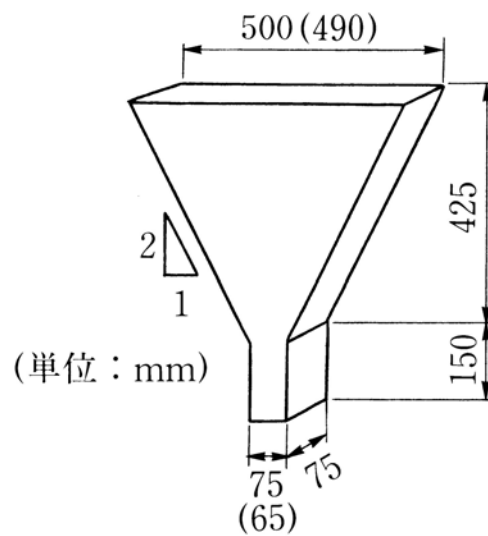
コンクリートライブラリー136 高流動コンクリートの配合設計・施工指針 152 ページ

JSCE-F 512 高流動コンクリートの漏斗を用いた流下試験方法 (案)

図 1 (a) V 漏斗 試験装置の幅：正しくは 75mm



(誤)



(正)